

蔵本キャンパスにおける多職種連携教育(IPE)の取り組み

—1年生による合同ワークショップの報告—



長宗雅美¹⁾ 辻 暁子¹⁾ 福富美紀¹⁾ 射場智美¹⁾ 岩田 貴¹⁾ 赤池雅史¹⁾

¹⁾徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 医療教育開発センター

1. 背景

徳島大学蔵本キャンパスでは、医療人を目指す学生が相互理解を深め、将来ともに円滑なチーム医療を行える基盤形成として、2007年より1年生による複数学科共同の「医療入門ワークショップ」を開催している。学部低学年の時期に、将来の医療コミュニケーション充実を見据え共同作業を行う意義は大きい。

今年度は、「医療の質と安全を向上させるために私達が学ぶべきこと」をテーマとし、KJ法を用いたワークショップを行った。

2. 対象

蔵本キャンパス医学部、歯学部、薬学部1年次学生373名(全体の88%)が参加した。(表1)

表1 参加者所属学科内訳

学部	学科(専攻)	参加人数	チューター
医学部	医学科	103	6
	栄養学科	51	3
	保健学科(看護)	73	7
	保健学科(検査)	16	2
歯学部	歯学科	37	2
	口腔保健学科	15	2
薬学部		78	5
合計		373	30

3. 方法

＜大塚講堂にて＞

- ①全体オリエンテーション ・IPEの意義 ・KJ法について
- ②医療安全に関するDVD「医療事故 どう減らすのか」(NHK)を視聴

＜グループに分かれてワーク＞

- ③アイスブレイキング(自己紹介など)
- ④現場における医療安全をイメージさせる為、医療事故を題材とした事例シナリオの提示
- ⑤「医療の質と安全を向上させる為に私達が学ぶこと」をテーマとして、KJ法を用いて学習項目のプロダクトを作成。
- ⑥3グループで成果発表
- ⑦終了後にアンケート調査。

* 1グループは8~9名とし、複数学科の学生を交えて45グループ構成した。

* 各学部学科より、教員、大学院生の協力を得、チューターとしてワークを支援した。



①全体オリエンテーション(大塚講堂)

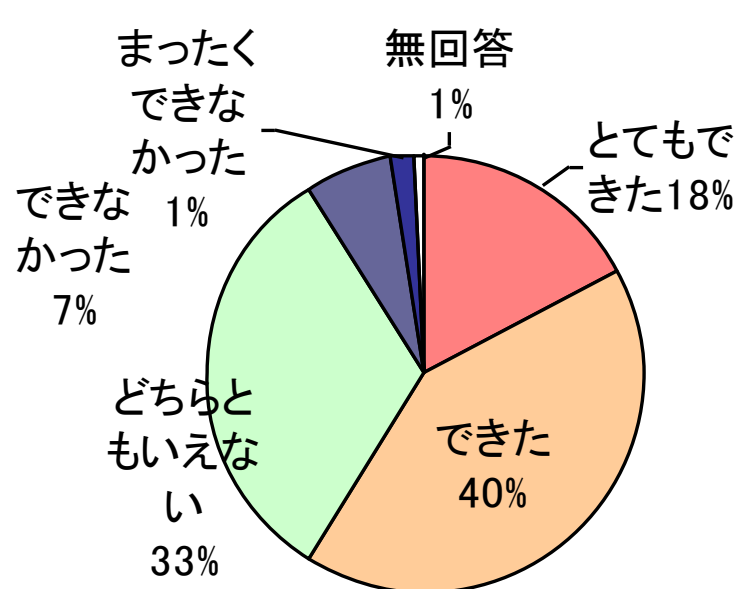
⑤ KJ法によるグループワーク

⑥成果発表

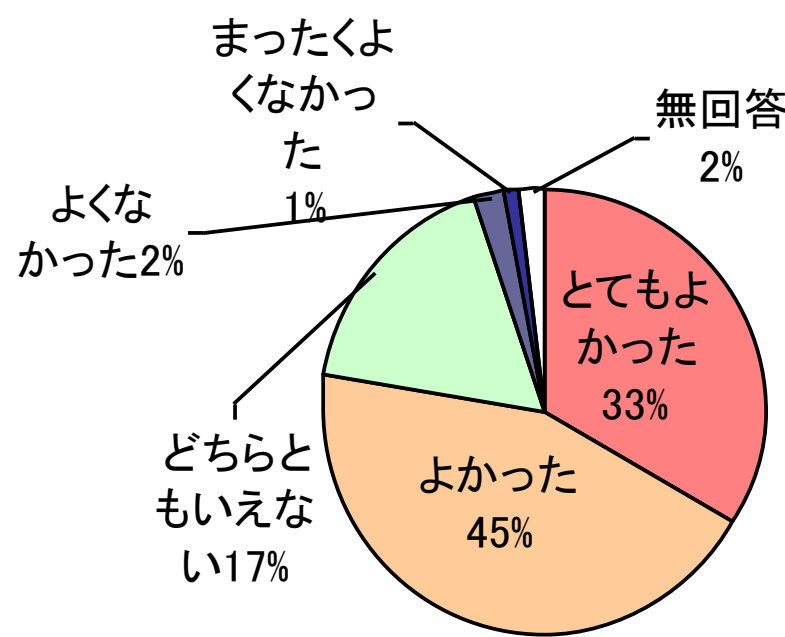
完成したプロダクト:付箋の色を学科別にした

4. 終了後アンケート結果

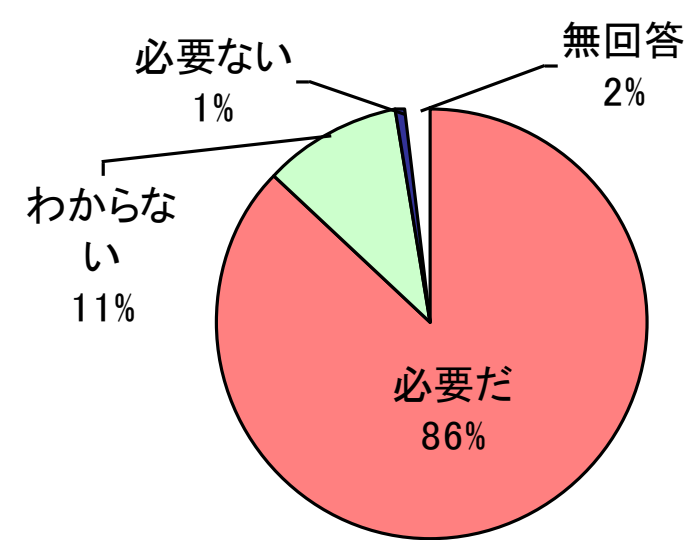
Q1 あなたは積極的にワークに参加できましたか？



Q2 ワークショップはよかったですか？

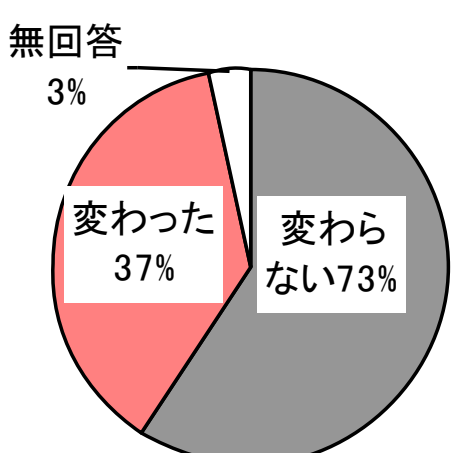


Q3 学部横断的なチーム医療について

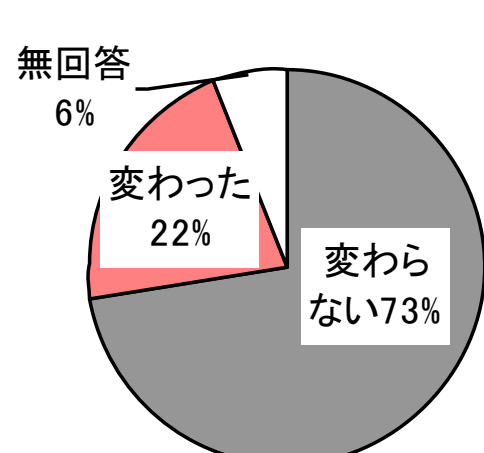


Q4 他の医療職に対するイメージ変化

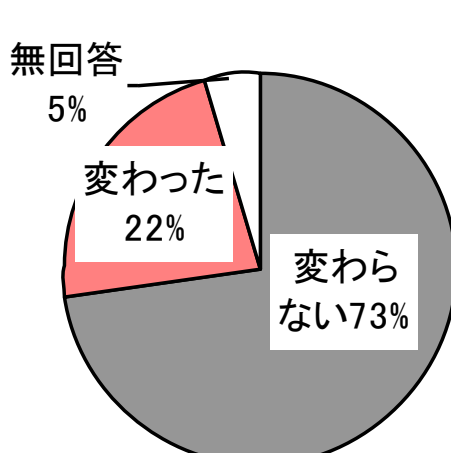
①医師・歯科医師に対して



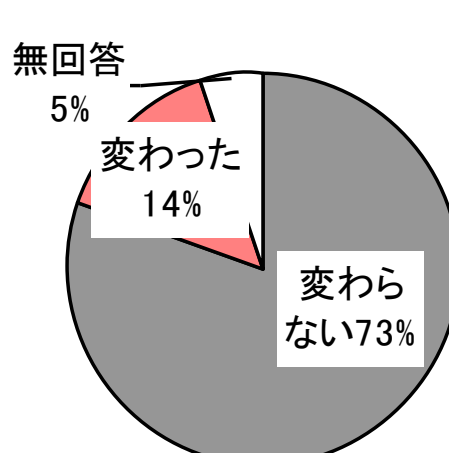
②薬剤師に対して



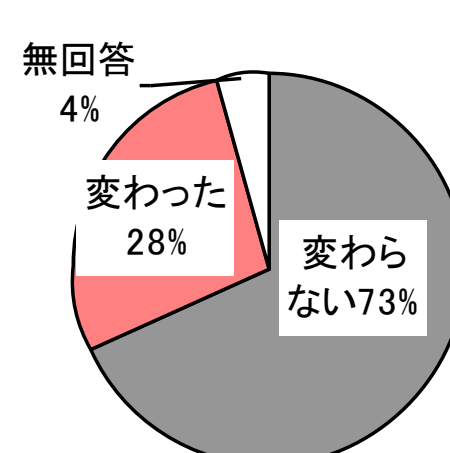
③看護師に対して



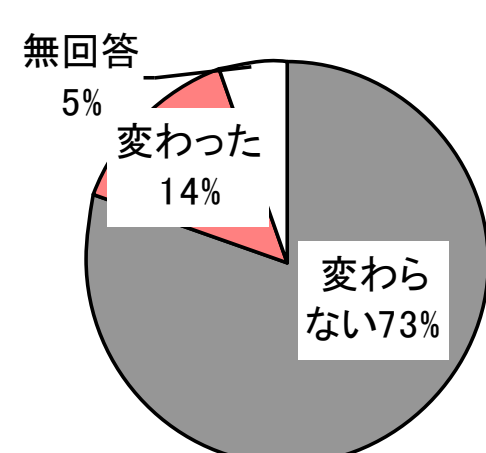
④歯科衛生士に対して



⑤栄養士に対して



⑥検査技師に対して



5. 考察

大学に入学して半年という1年次半ばの活動であったが、半数以上の学生が積極的に参加できていたと回答している。複数学科の混合編成グループを作成したため、必ずしも知人がいるとは限らず不安を抱き共同作業を開始した学生が多くいたことが予想されたが、終了時にワークショップを「よかった」「とてもよかった」と回答した学生は78%に上った。約4時間に及ぶ活動であったが、充実した時間を過ごせたことがうかがえた。チューターとして作業を支援した教員の働きも大きかったと思われる。専門教育がほぼ未履修の時期ではあったが、学部学科横断的にチーム医療を学ぶことに対して、86%もの学生がその必要性を感じていた。今回のワークでは、それぞれの職種についてのイメージを話し合う内容は含めていない為、各職種のイメージは大きく変化していないが、協力して働く現場の事例提供から、イメージが変わったと認識している学生が2割前後みられていたことは興味深い。診療現場を想定した学習テーマが効果的であったと考えられた。

6. まとめ

入学早期に学部学科の垣根を越えてワークショップ形式で実施する職種間連携教育、他学部、他職種を知る機会にもなり、医療安全の学習基盤の形成に有効であると考えられた。作成したプロダクトには「コミュニケーション」「チームワーク」といったキーワードが含まれており、今後分析してゆく。本企画実施にあたって、多学部学科教員が協力し、チューターとしてワークの支援を行ったことも意義深い。今後は専門教育の進行と連携した多年生積み上げ式のプログラム開発が求められる。